

教科名	国語	科目名	国語	単位数	4		
対象	中学3年	履修形態	必修	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 中高一貫校の特色を生かし、詰め込み学習に終わらず、自分自身で考えて知識を増やす取り組みが出来る。 ② 深い思考力・読解力・表現力を身につけていく。その力を各種文芸コンテスト、検定に活かすことが出来る。 ③ 自分の考えをまとめ、他者に分かりやすく文章や発表に表現できる。						
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考査、単元別テストの取り組みで評価。 ② 思考・判断・表現…授業態度、発表用資料作成、課題提出物などで評価。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業への取り組み方、自己評価シートなどで評価。						
学習方法	① 様々な教材を用いた先取り学習を行い、論理的な思考と確かな知識を身につける。 ② 学校独自教材や、型にはまらない多角的な国語へのアプローチ方法で生徒の発想と積極性を育てる。 ③ 他者に自分の考えや思いを、正しく分かりやすく伝えることを目指す取り組みを行う。						
教科書・教材等	新しい国語3（東書） 中学書写（学図） 古文単語コア350（旺文社） 現代文グレートラーニング40レベル2（尚文） キーワードの卵（尚文） 駿台古典文法10題ドリル古文基本編（駿台） 古典グレートラーニング48レベル1（尚文） など						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	「黄金の扇風機」 「サハラ砂漠の茶会」 「おくのほそ道」 ・古文の復習・基本	文章を読み比べながら、論の進め方や表現について理解し、自分の考えを持てるようにする。 優れた表現や文体の特徴に注意して作品を読み味わい、現代にも通じる古人の考え方を捉える。また、作品を通し、用言・助動詞を理解する。	12	10	「水の東西」 「まずは形から」 「宇治拾遺物語」 ・児のそら寝	日本の文化に関する文章を読み、文化・習慣の違いを対比しながら認識する。また、要約力を高める。 昔の言葉と現代の言葉とのつながりを理解する。また、作品を通して、用言・助動詞を理解する。	16
5	「万葉・古今・新古今」 「何のために働くのか」	それぞれの和歌が詠まれた背景や作者の心情について理解する。また、作品を通し、表現技法を理解する。 文章の論理の展開の仕方を的確に捉え、内容を理解し、必要な情報を集め、要約する。	16	11	「漁父之利」 復習及び発展内容	作品を通し、漢文の句法を学ぶ。また、繰り返し読み味わい文章内容を理解する。	12
6	「いつものように新聞が届いた」 古文：主語把握	東日本大震災における悲惨な状況を見聞し、考えを深め、次世代に繋げる。また、言葉の力を理解し、情報の意義とメディアの役割について考えを深める。内容を理解し、要約できるようにする。	16	12	「自然と人間の関係をとおして考える」	また、「自然と一」では、論理の展開を理解し、自然と人間の関係に対する主張を読み取る。さらに、二つの作品を通して、要約力を向上させる。	4
7	漢文の基本 「論語」 「百科事典少女」 「尋ね合い」	作品を通し、漢文の基本を学ぶ。また、繰り返し読み味わい、漢文のリズムを感じる。 文学作品を読み、人間や社会について考える。また、登場人物の心の動きを捉え、正確に理解する。	12	1	復習及び発展内容 「蛇足」	作品を通し、漢文の句法を学ぶ。また、繰り返し読み味わい文章理解を深める。	12
8	復習及び発展内容		4	2	「動的平衡としての生物多様性」	生物多様性と動的平衡についての考えを、様々な例を踏まえつつ読み取る。	16
9	「鏡」 古典の魅力 「鼠の婿取り」	小説を読み味わい、描かれた人間の生き方や場面・心情の変化を表現に即して読み味わう。 当時の世界観を感じる。また、作品を通し、用言を復習し、助動詞の理解を深める。	16	3	「今昔物語集」 ・阿蘇の史、盗人にあひてのがること 復習及び発展内容	昔の言葉と現代の言葉とのつながりを理解すると共に、古典作品と近現代の作家・文学作品のつながりも理解する。また、作品を通して、古文文法の総まとめ、助動詞の総まとめを行い、知識を深める。	16

備考 ・適宜、作文・小論文指導を行う。 ・適宜、書写の授業を行う。

教科名	社会	科目名	公民（公共）	単位数	4		
対象	中学3年	履修形態	必修	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 日本の政治経済のしくみが理解できる。 ② 社会の一員として生活していく自覚を芽生えさせる。 ③ 習得した見方・考え方を働かせる活動を通し、主体的に生きる公民としての資質・能力を身につける。						
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考査、配信して入力したワークシートをもとに評価する。 ② 思考・判断・表現…授業内の態度、発言や発表、定期考査、ワークシートをもとに評価する。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業態度、発表、ワークシートをもとに評価する。						
学習方法	① 予習と教室での授業を基本とし、解説・補足説明をまとめ、基本事項をおさえる。 ② 副教材等で知識の定着をはかる。 ③ 各単元で設定されている問いに、これまでの知識や基本事項をふまえて答える。						
教科書・教材等	新しい社会 公民（東京書籍） 公共（東京書籍）						
年 間 授 業 計 画							
月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数
4	【公民】 第2章 個人の尊重と日本国憲法 1 人権と日本国憲法 2 人権と共生社会 3 これからの人権保障	日本国憲法の基本原理を、具体的な生活との関わりから理解する。個人の尊厳と両性の本質的平等、自由・権利と責任・義務の関係が社会生活の基本であることを理解する。	12	10	第2部 第2章 1 法や規範の意義と役割 2 市民生活と私法 3 国民の司法参加	社会規範上の法の特徴、裁判における法の適応と解釈、私法の三原則を理解する。司法権の成立過程や、違憲審査制について実例をもとに理解する。	16
5	第3章 現代の民主政治と社会 1 現代の民主政治 2 国の政治の仕組み 3 地方自治と私たち	政治や議会制民主主義の意義や基本的な考え方について理解する。国会・内閣・裁判所の仕組みと働きについて理解する。住民自治を基本とする地方自治の考え方や、地方公共団体の政治の仕組みについて理解する。	16	11	第2部 第3章 1 現代の経済と市場 2 市場経済における金融の働き 3 財政の役割と持続可能な社会保障制度	経済主体と経済循環について、実際の経済事象と関連付けて理解する。市場の働きと限界、財政のしくみや社会保障の意義と現状について実際の事象と関連づけて理解する。	16
6	第4章 私たちの暮らしと経済 1 消費生活と市場経済 2 生産と労働 3 市場経済の仕組みと金融 4 財政と国民の福祉	消費者の権利と契約、消費者問題、流通の役割について理解する。企業の働きや株式会社のしくみ、現代の企業の特徴と課題を理解する。生産資源を効率よく配分する価格の働きや、金融機関が持つ役割を理解する。国民生活と福祉の向上を図るための政府の役割を理解する。	16	12	第2部 第4章 1 働くことの意義と職業選択 2 労働者の権利と雇用・労働問題	働くことの意義・労働市場の役割、キャリア形成の課題を理解する。国際社会が抱える様々な課題と解決の取り組みを理解する。国際問題解決のための経済的・技術的協力について理解する。	12
7	5 これからの経済と社会 第5章 1 国際社会の仕組み 2 さまざまな国際問題 3 これからの地域社会と日本	問題演習などを行う。	12	1	第2部 第5章 1 国際社会のルールとしくみ 2 国際社会と平和主義 3 国際平和への課題 4 グローバル化する国際経済	国際法の意義と役割・集団安全保障のしくみなどを理解する。冷戦後の世界の諸問題への取り組みを理解する。比較生産費説や国際金融の動向について実際の経済的事象と関連づけて理解する。	12
8	公民のまとめ	問題演習を行う。	4	2	公共のまとめ	問題演習や小論文の対策を行う。	16
9	【公共】 第2部 第1章 1 民主政治と政治参加	地方自治・国会・内閣の役割と権限を、実際の政治事象を手がかりにして理解する。行政の肥大化、日本の選挙制度や政党の課題、ネット時代の世論形成のしくみを理解する。	16	3	公共のまとめ	問題演習や小論文の対策を行う。	12

備考

教科名	数学	科目名	代数(数Ⅰ)	単位数	3		
対象	中学3年	履修形態	必修	授業形態	習熟度別		
学習の到達目標	① 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解することともに。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理できる技能を身につける。 ② 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 ③ 数学の良さを認識し積極的に数学を活用する態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。						
評価の観点 評価方法	① 「知識・技能」定期テストによる評価 ② 「思考・判断・表現」小テストや定期テストによる評価 ③ 「主体的に学習に取り組む態度」提出物や授業中の取り組みによる評価 ①②が7割程度、③が3割程度、10段階評価						
学習方法	① 授業の進度はやや速く、復習に時間をかけ既習範囲の定着を図る。 ② 教材等を用いて、途中経過を丁寧に記述することを通し、他人に納得してもらえ説明が書けるよう心がける。 ③ 大学入試問題など複雑な問題に取り組み、解答に繋がる方針を立てていくことで、思考力を養う。						
教科書・教材等	高等学校 数学Ⅰ (数研出版)、未来へひろがる数学3 (啓林館) 4 STEP 数学Ⅰ+A(数研出版)、チャート式基礎からの数学Ⅰ+A(数研出版)						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	<数学Ⅰ> 第1章 数と式 第1節 式の計算 1. 整式の加法と減法 2. 整式の乗法	展開の公式を利用できるようにする。式の形の特徴に着目して変形し、展開の公式が適用できるようにする。	9	10	第2節 2次関数の値の変化 3. 2次関数の最大・最小 4. 2次関数の決定	関数の値の変化をグラフから考察でき、2次関数が最大値、最小値を持つことを理解し、それを求めることができるようにする。様々な条件を満たす2次関数の方程式を求めることができるようにする。	12
5	3. 因数分解 第2節 実数 4. 実数 5. 根号を含む式の計算 第3節 1次不等式 6. 不等式の性質	因数分解の公式を利用できるようにする。また、式の形の特徴に着目して変形し、因数分解の公式が適用できるようにする。 不等式の性質を理解し、文章題を立式し解けるようにする。	12	11	第3節 2次方程式と2次不等式 5. 2次方程式	2次関数について理解し、関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを具体的な事象の考察や2次不等式を解くことなどに活用できるようにする。	12
6	7. 1次不等式 8. 絶対値を含む 方程式・不等式	絶対値の意味を理解し、絶対値を用いた方程式と不等式が解けるようにする。	12	12	6. 2次関数のグラフとX軸の位置関係 7. 2次不等式 2次関数 既習範囲の演習	2次不等式と2次関数を具体的な事象に活用できるようにする。 既習範囲の演習を行い定着を図る。	9
7	第2章 集合と命題 1. 集合 2. 命題と条件 3. 命題と証明	図表示などを用いて、集合についての基本的な事項を理解できるようにする。 命題を論理的に考えることで、真偽の判断ができるようにする。また、間接証明法を用いて、命題を証明できるようにする。	12	1	第5章 データの分析 1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばりと四分位数 4. 分散と標準偏差 5. データの相関	統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを分析・整理し、傾向を把握できるようにする。 四分位数、分散及び標準偏差などの意味について理解し、それらを用いてデータの傾向を把握し、説明できるようにする。	9
8	集合と命題の演習	既習範囲の演習を行い定着を図る。	3	2	数学Ⅱ 第1章 式と証明 第1節 式と計算 1. 3次式の展開と因数分解 2. 二項定理	整式の乗法・除法及び分数式の四則計算ができるようにする。	12
9	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1. 関数とグラフ 2. 2次関数のグラフ	グラフの平行移動を利用して、いろいろな2次関数のグラフがかけられるようにする。	12	3	3. 整式の割り算 4. 分数式とその計算 5. 恒等式	整式の乗法・除法及び分数式の四則計算ができるようにする。	9

備考

教科名	数学	科目名	幾何(数A)	単位数	2
対象	中学3年	履修形態	必修	授業形態	習熟度別
学習の到達目標	① 数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則を理解する。 ② 数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察する能力を高める。 ③ 数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方の良さを知り、それらを進んで活用する態度を育てる。 ④ 数学に興味・関心を持ち、意欲的に取り組む姿勢を養う。				
評価の観点 評価方法	① 「知識・技能」定期テストによる評価 ② 「思考・判断・表現」小テストや定期テストによる評価 ③ 「主体的に学習に取り組む態度」提出物や授業中の取り組みによる評価 ①②が7割程度、③が3割程度、10段階評価				
学習方法	① 教室での授業を基本とし、予習を行い、授業の進度はやや速く、復習に時間をかけ既習範囲の定着を図る。 ② 放課後に演習問題、質問に応じる。 ③ 個人添削を行う。				
教科書・教材等	高等学校 数学A(数研出版)、数学Ⅰ(数研出版)、未来へひろがる数学3(啓林館) 4 STEP 数学Ⅰ+A(数研出版)、チャート式基礎からの数学Ⅰ+A(数研出版)				

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 2. 場合の数 3. 順列 4. 組合せ	場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	6	10	第2節 三角形への応用 4. 正弦定理 5. 余弦定理	角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。 三平方の定理から余弦定理を導くことができる。また、三角形の形状を考察できるようにする。	8
5	第2節 確率 5. 事象と確率 6. 確率の基本性質	確率の意味を理解し基本的な確率の計算ができるようにする。 確率の基本性質を理解し余事象の確率など、基本的な確率の計算ができるようにする。	8	11	6. 正弦定理と余弦定理の応用	余弦定理や正弦定理を用いて、三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。	8
6	7. 独立な試行と確率 8. 条件付き確率	独立な試行について理解し、そのさまざまな確率を求めることができるようにする。 条件付き確率や確率の乗法定理の考えに興味・関心をもち、積極的に活用しようとする。また、条件付き確率を用いて頻度確率(原因の確率)を求めることができる。	8	12	7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用 問題演習	三角比を用いた三角形の面積公式を理解している。 正弦定理、余弦定理を空間図形の計量に応用できる。	6
7	9. 期待値	期待値を求めて、結果が不確実な状況下において、その選択が有利かを判断する際の基準として利用することができる。	6	1	〈数学Ⅱ〉 第5章 指数関数と対数関数 第5節 指数関数 1. 指数の拡張 2. 指数関数	指数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	6
8	〈数学Ⅰ〉 第4章 図形と計量 第1節 三角比 1. 三角比	直角三角形において、正弦・余弦・正接を求めることができ、応用問題に利用できる。	2	2	第2節 対数関数 3. 対数とその性質 4. 対数関数	対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	8
9	2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張	三角比の相互関係を利用して、1つの値から残りの値を求められる。 拡張された三角比を利用して、座標平面上に図示して考察することができる。	8	3	5. 常用対数	常用対数の定義を理解し、それに基づいて種々の値を求めることができる。	6

備考

[illegible]

教科名	理科	科目名	理科	単位数	5(3)		
対象	中学3年	履修形態	必修	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するための技能を身に付ける。 ② 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ③ 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。						
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価						
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。						
教科書・教材等	未来へひろがるサイエンス1（啓林館）・未来へひろがるサイエンス2（啓林館） 未来へひろがるサイエンス3（啓林館）・中学の理科-物理・化学-（教育開発出版） 中学の理科-生物・地学-（教育開発出版）・化学基礎(東書)・化学図録(数研出版)						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	中学理科エネルギー編① ・力による現象 エネルギー編② ・力の合成と分解 ・物体の運動	・力の種類、表し方について学ぶ。 ・質量とばねののびの関係について学ぶ。 ・水圧と浮力について学ぶ。 ・合力と分力について学ぶ。 ・等速直線運動について学ぶ。 ・斜面上の運動について学ぶ。 ・作用・反作用について学ぶ。 ・滑車を使ったときの仕事について学ぶ。 ・エネルギーの変換について学ぶ。 ・化石燃料について学ぶ。 ・放射線について学ぶ。	9	10	第3章 化学結合 1. イオンとイオン結合 2. 分子と共有結合 3. 金属と金属結合 4. 物質の分類	・イオン結合のでき方と性質を学ぶ。 ・共有結合のでき方と性質、配位結合について学ぶ。 ・電気陰性度と分子の極性について学ぶ。 ・金属結合のでき方と性質について学ぶ。 ・ファンデルワールス力と水素結合について学ぶ。 ・物質の分類方法を学ぶ。	12
5	・仕事とエネルギー ・多様なエネルギーとその移り変わり	・斜面上の運動について学ぶ。 ・作用・反作用について学ぶ。 ・滑車を使ったときの仕事について学ぶ。 ・エネルギーの変換について学ぶ。 ・化石燃料について学ぶ。 ・放射線について学ぶ。	12	11			12
6	環境編 ・自然界のつりあい ・人間と環境	・食物連鎖について学ぶ。 ・微生物のはたらきについて学ぶ。 ・自然界での物質の循環を学ぶ。 ・水質調査の仕方について学ぶ。	12	12			9
7	化学基礎 第1編 物質の状態 第1章 物質の構成元素 1. 物質の成分 2. 物質の構成元素 3. 物質の三態	・物質の分類や分離、生成方法を学ぶ。 ・単体、化合物、元素の概念を学ぶ。 ・物質の状態変化について学ぶ。	9	1	第2編 物質の変化 第1章 物質と化学反応式 1. 原子量分子量式量 2. 物質質量 3. 溶液の濃度 4. 化学反応式と量的関係	・相対質量の概念を学ぶ。 ・モル質量の求め方を学ぶ。 ・物質量とその単位「mol」について学ぶ。 ・気体の密度について学ぶ。 ・質量パーセント濃度とモル濃度の求め方を学ぶ。 ・化学反応式のつくり方を学ぶ。 ・化学反応における物質の量的関係	9
8			3	2			12
9	第2章 原子の構造と元素の周期表 1. 原子の構造 2. 元素の周期律と元素の性質	・原子の構造、電子配置と原子の性質との関係性を学ぶ。 ・元素の周期律と元素の性質を学ぶ。	12	3			9

備考

教科名	理科	科目名	理科(物理選択)	単位数	5(2)		
対象	中学3年	履修形態	選択	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 自然現象に対する興味・関心を高め、目的意識をもって、観察・実験などを行う。 ② 科学的に調べる能力と態度を育てるとともに、自然現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。						
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価						
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。						
教科書・教材等	科学と人間生活（第一学習社）						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	<全員> 運動の表し方 1. 速度 2. 加速度	・速度の表し方を学ぶ。 ・扱う文字式を学ぶ。 ・等加速度運動の公式を学ぶ。 ・v-tグラフ、x-tグラフの読み取り・活用を学ぶ。	6	10	3. 運動の法則	・運動方程式の使い方を学ぶ。 ・摩擦力の使い分けを学ぶ。 ・荒い面での運動方程式について学ぶ。 ・液体や気体から受ける抗力について学ぶ。	8
5			8	11			8
6	落体の運動 1. 自由落下 2. 投げおろし運動 3. 投げ上げ運動 4. 水平投射	・自由落下の公式を学ぶ。 ・投げおろし運動の公式の使い方を学ぶ。 ・投げ上げ運動の公式の使い方を学ぶ。 ・水平投射の公式の使い方を学ぶ。	8	12	仕事とエネルギー 1. 仕事 2. 力学的エネルギー	・仕事の表し方を学ぶ。 ・運動エネルギーについて学ぶ。 ・位置エネルギーについて学ぶ。 ・力学的エネルギー保存の法則について学ぶ。 ・粗い面でのエネルギーについて学ぶ。	6
7	5. 斜方投射	・速度の水平成分・鉛直成分の表し方を学ぶ。 ・斜方投射の公式の使い方を学ぶ。	6	1			9
8	<物理選択者のみ> 運動の法則 1. 力とそのはたらき 2. 力のつり合い	・力の種類と表し方を学ぶ。 ・力の合成・分解について学ぶ。 ・力のつり合いの表し方を学ぶ。	2	2	熱とエネルギー 1. 熱量保存 2. 熱量と物理変化 3. 熱と仕事	・熱量保存則について学ぶ。 ・水の物理変化と与える熱の関係について学ぶ。 ・熱サイクルについて学ぶ。	8
9			8	3			6

備考：1学期は物理分野・生物分野どちらも履修。2学期よりどちらか選択して受ける。

教科名	理科	科目名	理科(生物選択)	単位数	5(2)		
対象	中学3年	履修形態	選択	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 自然現象に対する興味・関心を高め、目的意識をもって、観察・実験などを行う。 ② 科学的に調べる能力と態度を育てるとともに、自然現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。						
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価						
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。						
教科書・教材等	科学と人間生活（第一学習社）						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4 							

備考：1学期は物理分野・生物分野どちらも履修。2学期よりどちらか選択して受ける。

教科名	音楽	科目名	音楽	単位数	1		
対象	中学3年	履修形態	必修	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。 ② 楽曲構成の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創造的に表現する能力を高める。 ③ 音楽に対する総合的な理解を深め、幅広く鑑賞する能力を高める。						
評価の観点 評価方法	① 自己のイメージをもち、感性を働かし、創造的で個性豊かに技能を身に付けている。 ② 音楽文化に対する総合的な理解を深め、そのよさや美しさを個性豊かに味わう。 ③ 音楽文化を愛好・尊重し、個性豊かに意欲的・主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わう。						
学習方法	① 腹式呼吸による豊かで自然な発声を身につける。 ② 和楽器の基本奏法を学ぶ。 ③ 楽典の基礎を理解し、視唱(奏)力を付ける。						
教科書・教材等	中学生の音楽2・3下(教育芸術社)、中学生の器楽(教育芸術社)ほか						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	「花」 「早春賦」	・腹式呼吸を基本とした豊かな発声を行う。 ・基本的な発声に加え、混声合唱としての響きの美しさを聴き合い、のびのびと楽しく表現出来るようになる。	3	10	「星に願いを」 「モルダウ」 「ホフマンの舟歌」 ＊9月の内容の継続	・＃・♭の運指を覚え、美しい音を出せるようにする。 ・質の高いアンサンブルを目指す。	4
5	「心の瞳」	・混声合唱の調和を目指す2～3部合唱を行う。	4	11	鍵盤楽器・バレエ・合唱 ・協奏曲の名曲 能・雅楽	・鑑賞を行う。 ・西洋音楽に偏ることなく、幅広い音楽観を身に付ける。	4
4			12	3			
7			3	1	和楽器の種類と歴史を学ぶ	・和楽器による演奏を行う。 ・我が国の伝統的な音楽文化の良さに気づき、尊重する心を育てる。	3
8	「星に願いを」 「モルダウ」 「ホフマンの舟歌」	・Aリコーダーによる独奏・アンサンブルを行う。 ・＃・♭の運指を覚え、美しい音を出せるようにする。 ・質の高いアンサンブルを目指す。	1	2	「卒業式関連唱歌」	・混声合唱の調和を目指す2～3部合唱を行う。	4
9		4	3	3			

備考：曲目は変更される場合があります

教科名		美術		科目名		美術		単位数		1	
対象		中学3年		履修形態		必修		授業形態		一斉	
学習の到達目標		① 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育てる。 ② 感性を豊かにし、美術の基礎的能力を伸ばし、豊かな情操を養う。									
評価の観点 評価方法		① 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。（美術への関心・意欲・態度） ② 感性や想像力を働かせて豊かに発想し、よさや美しさなどを考え心豊かで創造的な表現の構想を練っている。（発想や構想の能力） ③ 感性や造形感覚などを働かせて、表現の技能を身に付け、意図に応じて表現方法などを創意工夫し創造的に表している。（創造的な技能）									
学習方法		個人制作と一斉授業。									
教科書・教材等		美術2・3（下）（日文）、美術資料（秀学社） 水彩用具、スケッチブック、美術資料など									
年間授業計画											
月	学習内容		学習のねらい		時数	月	学習内容		学習のねらい		時数
4	鉛筆で静物、風景を描く。 人物のクロッキーなど。		対象をよく観察して形、表情、 質感、明暗、量感などを描写 する。		3	10	シナ材の板から彫刻刀を 使って木彫する。 ＊9月の内容の継続		図柄やデザインを工夫し、 美しい木彫を創造する。		4
5					4	11	シュールレアリズム絵画 超現実的な絵画を描いて みる。		ディペイズマンなどの技法を 取り入れた表現を試みる。		4
4					12	3					
7	水彩、色鉛筆で静物、風景を描く。		鉛筆デッサンで学んだ明暗、 量感などを色彩で表現する。		3	1	鑑賞する。		仏像等を鑑賞することで、当 時の時代背景と美術作品の関 連性を理解する。		3
8					1	2	自画像を描く。		今の気持ちや感じ取ったこと をもとに表現する。		4
9	シナ材の板から彫刻刀を 使って木彫する。		図柄やデザインを工夫し、 美しい木彫を創造する。		4	3					3

備考

教科名	保健体育	分野名	保健体育	単位数	3		
対象	中学3年	履修形態	必修	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。						
評価の観点 評価方法	① 忘れ物や提出物を含め、授業を通して自らを高めようとする意欲・関心・態度を評価する。 ② 各競技の技能を実技テストによって総合的に評価する。 ③ 各学期ごと、自己の振り返り、努力・工夫したことを思考・判断として総合的に評価する。						
学習方法	① 集団行動 ② 基礎的・合理的な運動の実践 ③ 教科書・資料を用いた学習						
教科書・教材等	必要に応じて視聴覚教材 中学校保健体育（大日本図書）						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	体づくり運動 ※体育理論 文化としてのスポーツの意義	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができる 文化としてのスポーツの意義について理解する。	9	10	球技：ネット型 （バレーボール）	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できる。 ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。	12
5	陸上競技	記録の向上や競技の楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を身につける。 積極的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようということ、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができる。 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できる。	12	11			12
6			12	12	球技：ネット型 （バドミントン/卓球）	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できる。 ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。	9
7	球技：ゴール型 （サッカー/フットサル）	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できる。 ゴール型では安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによって前への侵入などから攻防を展開すること。	9	1			9
8	※健康な生活と 病気の予防	健康な生活と疾病の予防について理解を深めることができるようにする。	3	2	球技：ゴール型 （バスケットボール）	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できる。 ゴール型では安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによって前への侵入などから攻防を展開すること。	12
9			12	3			9

備考

教科名	技術・家庭	分野名	家庭分野	単位数	1		
対象	中学3年	履修形態	必修	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ② 家庭の機能について理解を深め、課題をもって生活をより良くしようとする能力と態度を身につける。						
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…ワークシートなどをもとに評価する。 ② 思考力・判断力・表現力…ワークシートや実験シートなどをもとに評価する。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業態度、ワークシートなどをもとに評価する。						
学習方法	① 教室での一斉授業で内容を理解する。 ② 体験の中で実践的な態度を身につけていく。						
教科書・教材等	技術・家庭 家庭分野（教育図書株式会社）						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	A 家族・家庭生活 ＜2章＞ 幼児の生活と家族	・ 幼児の体の発達の特徴を理解する。 ・ 幼児の運動機能の発を理解する。	3	10		・ 幼児を観察したり、実際にふれ合ったりすることを通して、幼児についての理解を深める。 保育実習：〇〇こども園	4
5		・ 幼児の言葉や情緒、社会性、もののとらえ方の発達の特徴を理解する。 ・ 幼児が生活習慣を身につけるには、まわりの大人の支援が必要であることを理解する。	4	11	C 消費生活・環境 ＜1章＞ 私たちの消費生活	・ 消費者としての自覚を持つ。 ・ 意思決定のプロセスにそって、商品購入を考えることができる。 ・ 契約によって発生する権利と義務を理解する。	4
6	*B 衣食住の生活 ＜3章＞ 調理と食文化	・ 幼児の一日の生活の特徴を理解する。 ・ 幼児にとっての遊びの意義を理解する。 *・ 幼児のおやつを作る。 調理実習：蒸しパン	4	12		・ いろいろな販売方法の特徴について理解する。 ・ いろいろな支払い方法の特徴について理解する。 ・ 事業者と消費者には情報量や交渉力に格差があることを理解する。	3
7		・ 幼児の心身の発達と遊びには深いかかわりがあることを理解する ・ 幼児の発達を支える家族の役割を理解する。 ・ 幼児の発達を支える地域の役割を理解する。	3	1		・ 中学生に身近な消費者トラブルについて理解する。 ・ 消費者を守る法律や制度を理解する。 ・ 消費者トラブルの解決方法と、解決のための行動の意味を理解する。	3
8		・ 幼児とのかかわり方を理解する。	1	2	＜2章＞ 消費者の権利と責任	・ 消費者の権利と責任を理解する。 ・ 生活の中で消費者の権利が果たす役割について考える。 ・ 消費者の権利と責任のかかわりを理解する。 ・ 自分や家族の消費生活が社会に与える影響について理解する。	4
9		・ 幼児を観察したり、実際にふれ合ったりすることを通して、幼児についての理解を深める。 (実習に向けての計画・準備を含む)	4	3	*B 衣食住の生活 ＜3章＞ 調理と食文化	・ 自分や家族の消費生活が環境に及ぼす影響について理解する。 ・ 自分や家族にできることを考え、行動できる。 *・ 幼児のおやつを作る。 調理実習：牛乳かん	3

教科 科 名		外国語	科 目 名	英語	単 位 数	7	
対 象		中学3年	履 修 形 態	必修	授 業 形 態	一斉	
学 習 の 到 達 目 標		① 英語の音声や語彙、表現、文法などの理解を深めるとともに、これらの知識を4技能による実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できるようにする。					
		② コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や聞き手の意図などを的確に理解できるようにする。					
		③ 英語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的・自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。					
評 価 の 観 点 評 価 方 法		① 4技能（読む・書く・聞く・話す）のための知識と技能を身につけているかという観点で、定期考査、実力テスト、小テストなどによる評価を行う。（知識・技能）					
		② 学習した知識や技能を活用できているかという観点で、定期考査、実力テスト、授業時における英語活動などによる評価を行う。（思考・判断・表現）					
		③ 異文化理解や英語を用いてのコミュニケーションへの主体的な取り組みという観点で、授業や課題への取り組み、提出物などによる評価を行う。（主体的に取り組む態度）					
学習方法		① 予習にて、本文理解に必要な語彙や文法事項を確認しておく。					
		② 授業を通して、本文内容や文法事項などを理解する。					
		③ 読む・聞く・音読する・書く・発表するなど、積極的に教科書内容に触れる。					
		④ 英語を通して、情報や主張・意見を的確に理解できるよう復習に努める。					
教科書・教材等		教科書 NEW TREASURE STAGE3 (Z会)					
		副教材 NEW TREASURE STAGE3 文法問題集(Z会)、 NEW CROWN 3 (三省堂)、速読英単語 必修編 (Z会)					
年 間 授 業 計 画							
月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数
4	Lesson 1 過去のある時点よりも前にしたことや状態を、過去と結びつけて表現する	時制・完了形 ・現在完了/現在完了進行形 ・過去完了/過去完了進行形 ・大過去	21	10	物や人の特徴を説明したり、補足説明をしたりする	・関係代名詞と前置詞 ・関係副詞where, when, why ・関係副詞how / 非制限用法	28
	Lesson 2 過去の推量や過去の習慣を表現する	助動詞の発展的用法 ・推量を表す助動詞 ・would / used to など ・助動詞+have+過去分詞			Lesson 8 時や場所、理由などをより詳しく説明する	名詞節 ・疑問詞に導かれた名詞節 ・What do you think ~? ・名詞節を導くif, whether ・It ~ that …	
5	Lesson 3 人に対する評価や行為の目的を伝える	不定詞 ・復) It ~for(of) -to ・復) in order to / 不定詞+前置詞 / 不定詞の否定形 ・使役動詞/知覚動詞 ・seem(appear) to ・完了不定詞	28	11	Lesson 9 名詞の働きをするさまざまな表現を使う	分詞・分詞構文 ・SVC(=分詞), SVOC(=分詞) ・分詞構文 ・否定形・完了形の分詞構文	28
	Lesson 4 人に行為をさせたことを話せる	受動態の発展的用法 ・助動詞を用いた受動態 ・進行形/完了形の受動態 ・句動詞・使役動詞・知覚動詞の受動態			Lesson 10 文に‘状況’や‘理由’などの情報を加える	比較 ・比較級を用いた表現 ・原級を用いた表現 ・最上級を用いた表現	
6	Lesson 5 誰かにさせたことを表現する	副詞節 ・相関接続詞 ・‘時’‘譲歩’などを表す接続詞 ・‘目的’‘結果’などを表す接続詞	28	12	Lesson 11 事実とは異なることを想像して表現する	仮定法 ・仮定法過去 ・仮定法過去完了 ・I wish … / as if(though)	21
	Lesson 6 文と文をつなぐさまざまな表現を使う	関係代名詞 ・関係代名詞whose ・関係代名詞what ・制限用法/非制限用法			Lesson 12 さまざまな表現を使うことで主張や気持ちをより明確に伝える	さまざまな表現 ・強調構文 /doなどを用いた強調 ・否定を表す語句 ・部分否定と全否定 ・倒置	
7	Lesson 7	関係副詞	28	3			21

備考 学習進度は、クラスにより異なる。NEW TREASURE3学習後は、ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION I を学習する。